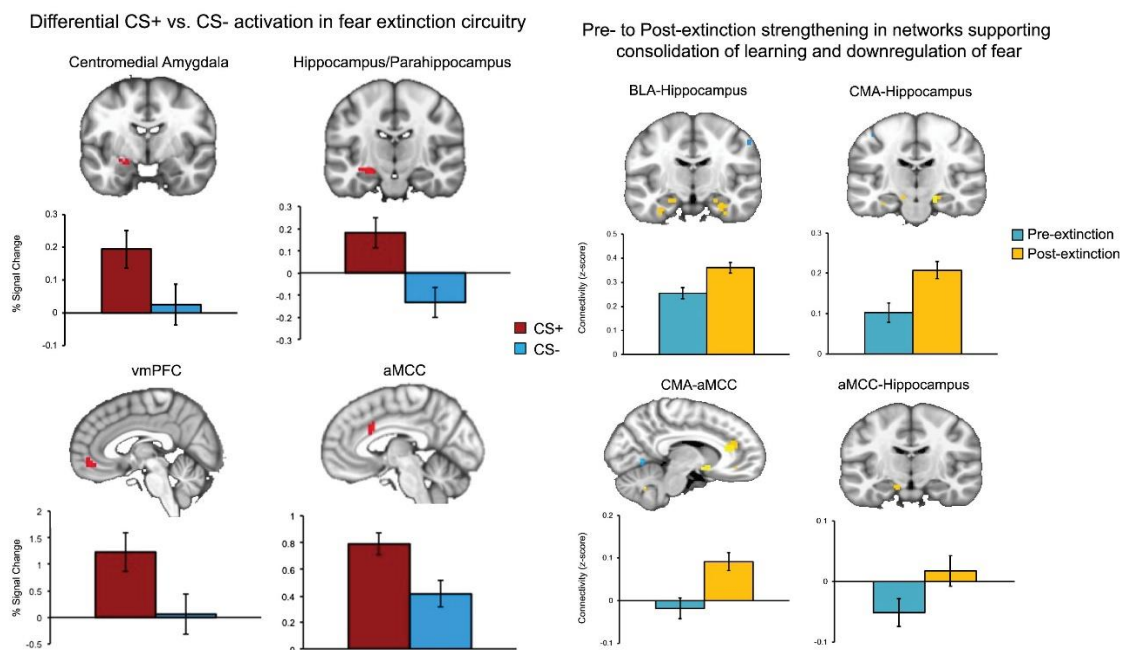


期待 49：恐怖条件づけ後の恐怖関連 network の機能結合の変化

今月、Belleau, E.L. et al. (2018) Soc. Cognit. Affect. Neurosci., 13:1083-1046 を『応用』のところで簡単に紹介した。恐怖条件づけの消去後の恐怖やその制御関連の領域の活性や機能結合を問題にしている。

下の左の図は消去時の CS+ と CS- に対する扁桃核の中心内側核 CMA、海馬/海馬傍皮質、腹内側前頭前野 vmPFC、前中部帯状皮質 aMCC の活性である。CS+ に対する反応が強い。右の図は扁桃核の基底外側核 BLA-海馬、CMA-海馬、CMA-aMCC、aMCC-海馬の消去前後の機能結合である。これらの機能結合は消去後に増加している。



もし、恐怖条件づけの後に、すでに数回述べたが、記憶の不安定な時期があるのなら、それをこれらの領域の活性や、機能結合の変化で捉えることはできないのだろうか。主要な変数は獲得後の時間で、例えば、直後、3 時間、6 時間、12 時間、24 時間後の安静時あるいは消去時の活性や機能結合を fMRI で計測するのはいかがだろうか。